

新年特集



新年のスタートにあたり、声を寄せてくれた恵庭の子どもたち。そして、いつもえにわ子ども新聞を応援してくださっている方々の、新春メッセージです。我が家のお正月



鈴木 泰 鈴木 泰 鈴木 泰

我が家には4人の子ともがいます。長男が高校生。始にかけて一家でスキーに行くのが恒例になっていました。私がスノーボードを覚えたのは、当時高校生の次男に負けたくなかったからです。全身アザだらけになって覚えました。

そのうちに子どもたちが進学などで北海道から離れるようになると、家族が一人ずつ減り、賑やかだった6人家族はいつのまにか半分になってしまいました。せつかく覚えたスノーボードも一緒に滑る子どもたちがいないと出番がありません。

そして今は、お正月にかけて子どもたちが沖繩

戦争や大干ばつで飲み水がなく、泥水を飲んだ子どもたちが次々に死んでいく。中村さんは、注射や薬よりも、まず清潔な飲み水が必要だと思っただけです。

子どもを守ることは、大人の責任ですから、中村さんの活動に、とても感動しました。

みなさんが大人になつたとき、困っている人を助ける仕事をしてもらえたら、こんなうれしいことはありません。

世界中で活躍しているみなさんの姿を想像しながら、私も大人として、何ができるのかを考え続けたいと思っています。

●平成14年、夫の定年退職と同時に恵庭市恵み野に転居。朗読活動のほか、千歳民報「ゆのみ」にエッセイ執筆中。

読書三昧

イラストレーター 小川里恵子

お正月休みは毎年、読書にどっぷりつかります。読みたい本を積み上げて、ひたすらに読みまくります。一冊の本で



自分の知らない楽しいこと悲しいこと、たくさん見ることがあります。皆さんもたまには読書で旅をしてみませんか？

今年もイラストをいっぱい描いてがんばります。

動物たちの痕跡がいつばいあるのです。

丘を越え少し開けた雪原にはどんな足跡があるのかな？注意して観察してみたいかかでしょう。

雪原の上を写真のように歩いているのが今回のテーマ「うさぎの足跡」です。冬の森の観察会での1コマでした。

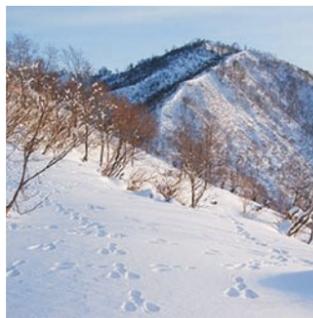
ケン・ケン・パ(うさぎの足跡)

環境NGOエコスクール 北海道代表 庄田 洋



今年はお正月はウサギの足跡を見ることがあります。

山々に初雪が降ったころ、私は「えにわ湖や森林公園」周辺の山々を歩きたまわるのが楽しみなものです。その訳は、動物の成長の記録となる様々な跡が残されているからです。例えば、まっすぐ何処までも続いているのはキタキツネ、さらに雪原から木の上に登ったような足跡、そうですね、猫と同じくらいのはエゾクロテンなど。またまた大きな人間が裸足でソノソと歩いているのはヒグマだの、自然の山には街なかでは見られない



朝日新聞えにわ・ちとせ情報記者 宮崎裕一郎

年末年始は、みなさんどう過ごしましたか？

ぼくのお正月は毎年親戚が実家に集合して、周りに揉みくしゃにされながら過ごすのが恒例になっています。

2010年は本当に多くの方に会い、勉強させていただいた年でした。

さて、これから成長していく子供たちに伝えたいことがあります。それ

は、「たくさん仲の良い友達をつくって冒険してください」です。

遊びの中には本当にたくさんのお勉強や発見がありますし、「思い出」という財産は過去にしか作れません。そして、「時間」は止まってくれません。だからこそ友達と一緒になんでもいのでチャレンジしてください。その「挑戦」が「思い出」に変わります。

ぼくも全力で「思い出」をつくっていきます。

The Chitose Mimpo

千歳民報

恵庭に取材拠点(支局)を常設している唯一の日刊紙。しかも月額2,090円の低料金。地元ニュースと感動を夕方にお届けします。

購読のお申し込みは...

0120-081-464

千歳市北斗2丁目10-15 ☎23-4211

恵み野イコーカ堂内

フーリスト池永

TEL 0123-36-4493

心をこめた花の贈り物

BISES FLOWER

簡単! ネットで注文 すぐ発送!

●案天市場店 <http://www.rakuten.co.jp/auc-bisesflower/>

●ヤフーショッピング店 <http://store.shopping.yahoo.co.jp/bises/index.html>



近藤さんに聞いてみよう!

【今回の質問】
どうして顔は親と似るんだらう?

【回答】

お正月なので、孫のみゆきが父親と遊びにきました。さつそく「みゆきは、親の顔に似てると思う?」

ちらっと、父親の方をみて、みゆきは、ほほえむだけ。まるで、モナリザのようなほほえみでした。うーん、この問題を解くのは、なかなかむずかしそう。正月の三が日は、のんびりとしたかったのになあ。そして考えました。

質問の裏には、親と似たくなかったのになあ...という思いが、かくされているような気がします。うかつに答えたら、きみのお父さんやお母さんから、おお目玉をくらっちゃうよ。

そんなわけで、ぼくの顔の表情が父に、そして面長の顔が母に似ていて、とてもうれしいわけを話します。

父は27年前に、母は65年も前の、ぼくが12才のと

きに死にました。ですから、母の記憶はあまり残っていないのです。でも、父にはよく叱られました。そのたびに、ぼくは、よそからもらわれてきた子供かもしれないと思っただけです。

そうして、20才になり30才、50才となって、「お父さんに似てきたねえ」と言われ、母を知っている人には、お母さんの面影があるね、といわれたりしました。そのたびに、ぼくはうれしくなり、ニコニコ顔になります。

今は、「笑顔がお父さんにそっくりだね」と言われます。実は、ぼくも若いころから父の笑顔が大好きで、あんな笑顔になりたいな、と思っただけです。だから、父や母の若い頃の写真を持って、鏡の前に立ちます。そしてニコッとします。もう、そっくり。

親子だもの、毎日、顔を合わせていたんだもの。似るのは当たり前なんです。性格もそっくり。

でも、髪の毛の薄さの似たくなかったなあ。

(近藤春男)



【近藤さん】恵庭市のエッセイスト。出版したばかりの著作は大好評発売中!